

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																																											
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 企業等との連携については、「医療的なスキルと福祉的なマインドを兼ね備えて地域福祉サービスに貢献できる作業療法士を養成する」という養成目的を踏まえて、企業等と直接に連携する科目についてはより良い内容となるように意見交換をする。また、企業等から業界の要望を聴取し、業界が求める人材を育成する視点に基づいてカリキュラムの内容見直しに																																											
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、理事及び学校長、教務部長、学部長と業界代表によって構成され、学校が編成した教育課程を、業界代表者からの意見や提案を活かせるようにする。委員会は改善意見を学校長に報告し、学校長は報告を活かした教育課程を決定し、委員会へ告知する。																																											
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年4月1日現在																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内海 哲也</td> <td>佐倉厚生園病院 作業療法士 主任</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>中里 武史</td> <td>東京都作業療法士会 事務局長</td> <td>平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>金子 敦史</td> <td>千葉県作業療法士会 理事</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>小林 和弘</td> <td>東京福祉専門学校 学校長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高橋 友深</td> <td>東京福祉専門学校 事務局長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舘脇 康郎</td> <td>東京福祉専門学校 教務部長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>福原 康久</td> <td>東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>奥村 丈司</td> <td>東京福祉専門学校 学生サービスセンター長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高野 大輔</td> <td>東京福祉専門学校 キャリアセンター長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	内海 哲也	佐倉厚生園病院 作業療法士 主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③	中里 武史	東京都作業療法士会 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	②	金子 敦史	千葉県作業療法士会 理事	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	①	小林 和弘	東京福祉専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		高橋 友深	東京福祉専門学校 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		舘脇 康郎	東京福祉専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		福原 康久	東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		奥村 丈司	東京福祉専門学校 学生サービスセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		高野 大輔	東京福祉専門学校 キャリアセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
名前	所属	任期	種別																																								
内海 哲也	佐倉厚生園病院 作業療法士 主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③																																								
中里 武史	東京都作業療法士会 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	②																																								
金子 敦史	千葉県作業療法士会 理事	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	①																																								
小林 和弘	東京福祉専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
高橋 友深	東京福祉専門学校 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
舘脇 康郎	東京福祉専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
福原 康久	東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
奥村 丈司	東京福祉専門学校 学生サービスセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
高野 大輔	東京福祉専門学校 キャリアセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																																											
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (開催日時) 第1回 平成29年3月5日 13:00～15:00 第2回 平成29年9月1日 15:00～17:00																																											
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 ここ数年、作業療法士を目指す人が減ってきている。3年間でここまでできることをもっとアピールすることが必要。作業療法士協会でも、若い中学生への広報活動も大事と考えている。今後は連携して啓蒙活動を行うことを検討していく。																																											
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																																											
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 作業療法士養成のために不可欠な臨床(評価)実習において、実習の到達目標と指導内容を事前に企業等と学校で相互理解を図る。これを基に学内にて実習開始前と終了後の実習指導において学生に教育を実施する。																																											
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 実際に臨床現場で活躍している実習指導者による技術指導を通して、学内では学べない知識、技術を学生自ら修得できるよう連携を図る。また、適宜行う実習巡回指導でも実習担当者と教職員が学生状況を把握し適切な指導にあたる。																																											
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場実習概論</td> <td>作業療法士として現場に出るための気構え・身構え・心構えを学ぶ。</td> <td>遊々保育園、ライフコミュニケーション、暖心苑</td> </tr> <tr> <td>測定実習</td> <td>評価実習の前に実際の対象者を通して、検査、測定の技術を習得し次の評価実習につなげる。</td> <td>王子生協病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、蒲田リハビリテーション病院 等</td> </tr> <tr> <td>臨床実習Ⅰ</td> <td>臨床(評価)実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する。</td> <td>葛西昌医会病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等</td> </tr> <tr> <td>臨床実習Ⅱ</td> <td>臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う。</td> <td>王子生協病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等</td> </tr> <tr> <td>臨床実習Ⅲ</td> <td>臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う。</td> <td>葛西昌医会病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	現場実習概論	作業療法士として現場に出るための気構え・身構え・心構えを学ぶ。	遊々保育園、ライフコミュニケーション、暖心苑	測定実習	評価実習の前に実際の対象者を通して、検査、測定の技術を習得し次の評価実習につなげる。	王子生協病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、蒲田リハビリテーション病院 等	臨床実習Ⅰ	臨床(評価)実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する。	葛西昌医会病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等	臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う。	王子生協病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等	臨床実習Ⅲ	臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う。	葛西昌医会病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等																						
科目名	科目概要	連携企業等																																									
現場実習概論	作業療法士として現場に出るための気構え・身構え・心構えを学ぶ。	遊々保育園、ライフコミュニケーション、暖心苑																																									
測定実習	評価実習の前に実際の対象者を通して、検査、測定の技術を習得し次の評価実習につなげる。	王子生協病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、蒲田リハビリテーション病院 等																																									
臨床実習Ⅰ	臨床(評価)実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する。	葛西昌医会病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等																																									
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う。	王子生協病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等																																									
臨床実習Ⅲ	臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う。	葛西昌医会病院、みどり野リハビリテーション病院、森の里病院、沖縄中央病院、介護老人保険施設カーサ・ピアンしろさと 等																																									

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教員研修規定により、授業内容・教育技法の改善、またクラス運営・マネジメント力を含んだ指導力の向上が、授業力の向上につながる研修を行うことを目的とする。さらに協会、職能団体が主催する研修や学会などの研修にも参加を促している。			
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 日本作業療法士協会学会 FDマイクロ・ミドルレベル研修 国家試験対策研修 ②指導力の修得・向上のための研修等 教職員カウンセリング研修 FDマイクロレベル・ミドルレベル研修 実習指導者会議			
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 日本作業療法士協会学会 FDマイクロ・ミドルレベル研修 国家試験対策研修 ②指導力の修得・向上のための研修等 教職員カウンセリング研修 FDマイクロレベル・ミドルレベル研修 実習指導者会議			
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針 評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		教育理念・目標・育成人材像	
(2)学校運営		運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム	
(3)教育活動		目標設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定など・資格・免許取得の指導体制	
(4)学修成果		就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価	
(5)学生支援		就職等進路・中途退学への対応・学生相談・学生生活・保護者との連携・卒業生・社会人	
(6)教育環境		施設・設備等・学外実習・インターンシップ等・防災・安全管理	
(7)学生の受入れ募集		学生募集活動・入学選考・学納金	
(8)財務		財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開	
(9)法令等の遵守		関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開	
(10)社会貢献・地域貢献		社会貢献・地域貢献・ボランティア活動	
(11)国際交流		国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況 福祉分野の学生募集が苦戦しているようだがどの様な対策をしているか？ ⇒学校おもしろ化計画・仲間作り、という2大方針を掲げ学校改革を進めている。 入学前に何か取り組みしているか？ ⇒「勤労観・職業理解」を意識して入学前から動機付けできるようプログラムを試行錯誤しながら行っている。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
西田 憲司	特別養護老人ホーム きく 事務長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生代表
野沢 裕美子	こども保育福祉科 保護者	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	保護者代表
桜井 道夫	清新北ハイソ自治会 会長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	地域代表
高部 英彦	正則学園高等学校 教頭	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	高等学校代表
平方 俊雄	社会福祉法人東京栄和会 理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
大江 恵子	社会福祉法人清香会 統括団長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
皆川 隆太	就労移行支援事業所natura 管理者	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
内海 哲也	佐倉厚生園病院 作業療法士 主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
小林 和弘	東京福祉専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
古島 暉大	学校法人滋慶学園 常務理事	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高橋 友深	東京福祉専門学校 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
館脇 康郎	東京福祉専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
佐藤 祐子	東京福祉専門学校 ソーシャルワーク学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高橋 利明	東京福祉専門学校 ケアワーク学部 リーダー	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
福原 康久	東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	

木村 早希	東京福祉専門学校 チャイルドケアワーク学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
奥村 丈司	東京福祉専門学校 学生サービスセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高野 大輔	東京福祉専門学校 キャリアセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()
 URL://www.tcw.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 学生・保護者・卒業生・地域住民・福祉業界関係者など、学校と関係者の理解を深め、連携・協力するとともに、教育活動やその他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革 ・学校長挨拶 ・教育目標 ・教育システム
(2)各学科等の教育	・設置学科(修業年限、入学定員、養成目的) ・教育目標 ・教育システム ・取得目標資格 ・卒業後の進路
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育の取り組み ・就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	・教育関連イベント ・学校設備状況 ・特色のある教育活動
(6)学生の生活支援	・学生相談室 ・学生サービスセンター ・留学生
(7)学生納付金・修学支援	・授業及び他経費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・監査報告書 ・貸借対照表 ・収支計算書
(9)学校評価	・学校関係者評価委員会報告書 ・自己点検・自己評価
(10)国際連携の状況	・海外研修
(11)その他	・その他の学校の取り組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 URL://www.tcw.ac.jp/

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 作業療法士科(夜間部)) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	人間の心の基本的な仕組みについて理解する。自分自身や他者の心理を考える手がかりとなる知識と、科学的に心を解明する方法を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーション論	市民生活における倫理、社会生活に不可欠な倫理観並びに対人コミュニケーションの基礎を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
○			文章表現とコンピュータ	Word・Excel・PPの操作を学びプレゼンテーションを実施することで使用方法を身につける。	1前	30	2		○		○				○
○			現場実習概論Ⅰ	作業療法士として現場に出るための気構え・身構え・心構えを学ぶ。	1後	60	4		○		○				○
○			現場実習概論Ⅱ	作業療法士として現場に出るための気構え・身構え・心構えを学ぶ。	2後	60	4		○		○				○
○			人体構造学Ⅰ	人体を構成する骨・筋の基本的構造・形態・機能について理解する。	1前	60	4	○			○				○
○			人体構造学Ⅱ	人体を構成する骨・筋の基本的構造・形態・機能について理解する。	1後	60	4	○			○				○
○			生体機能学Ⅰ	生体の組織・臓器・内部環境の恒常性維持・外部環境への適応などの機能や調整機構について概観する。	1前	60	4	○			○				○
○			生体機能学Ⅱ	生体の組織・臓器・内部環境の恒常性維持・外部環境への適応などの機能や調整機構について概観する。	1後	30	2	○			○				○
○			運動学	人体構造学や生体機能学および物理学の知識をもとに人間の身体運動を科学的に分析研究することにより、運動器の構造や機能、正常運動の特性につ	1後	30	2	○			○				○
○			運動学演習	運動学で学んだ運動器の構造や機能、正常運動の特性について分析する基礎技法を学ぶ。	1後	30	2		○		○				○
○			人間発達学Ⅰ	人間発達に対する理解の起訴として、各段階における身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的発達、人格の発達を概観する。	1前	15	1	○			○				○
○			人間発達学Ⅱ	人間発達に対する理解の基礎として、各段階における身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的発達、人格の発達を概観する	1前	15	1	○			○				○
○			運動障害論	疾病や外傷に起因する運動器障害の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
○			内部障害論	内部疾患を医学的見地から理解するとともに疾病から派生する障害について理解する。	1後	30	2	○			○				○
○			神経障害論	抹消および中枢神経系機能の障害に起因する疾病を理解するとともに疾病から派生する障害について学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
○			精神障害論	精神疾患の病態、病型と分類並びに精神疾患から派生する障害を学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
○			高次脳機能障害論	大脳皮質の損傷に起因する基本的症状について学ぶ。	2前	60	4	○			○			○	

○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの定義、歴史、目的をはじめ医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションを総合的に理解する。	1前	30	2	○		○		○			
○		作業療法概論	作業療法の起源や歴史、および定義や治療理論などを作業療法学としての学問的基礎知識と記録・報告などの基礎技法を理解する。	1前	30	2	○		○		○			
○		基礎作業学演習	作業療法の治療手段としての様々な作業活動を行うことを通して、その基礎的な知識と技術を習得し、治療的応用について学ぶ。	2前	60	4		○	○		○			
○		身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	身体障害領域の検査・測定に必要な各種技法の実践を習得する。	2前	30	2		○	○		○			
○		身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	身体障害領域の検査・測定に必要な各種技法の実践を習得する。	2後	60	4		○	○		○			
○		精神障害作業療法評価学演習	精神障害領域における各障害に対する作業療法の実践を習得する。	2前	30	2		○	○		○			
○		老年期障害作業療法評価学演習	老年期障害の概念や老年期をとりまく社会資源などの基礎知識や基礎技法、及び老年期障害に対する作業療法の実践について学ぶ。	2後	30	2		○	○		○			
○		身体障害作業療法論	身体障害領域における各種障害の基礎知識及び評価・治療計画などの基礎技法について学ぶ。	2後	30	2	○		○		○			
○		身体障害作業療法治療学演習	身体障害領域における各障害に対する作業療法アプローチの実践を習得する。	3前	30	2		○	○		○			
○		機能代償作業療法総論	義肢装具や自助具の作製や適合判定などその実際について学ぶ。	2前	30	2	○		○		○			
○		日常生活活動論	人に必要な日常生活活動についての概観を理解する。	2後	30	2	○		○				○	
○		日常生活活動演習	日常生活活動について必要な車椅子や移乗動作を含めた実際的な技術を体験的に学ぶ。	2後	30	2		○	○				○	
○		精神障害作業療法論	精神疾患の病態、病型と分類並びに精神疾患から派生する障害を学ぶ。	2前	30	2	○		○				○	
○		精神障害作業療法治療学演習	精神障害領域における各障害に対する作業療法の実践を習得する。	3前	30	2		○	○		○			
○		老年期障害作業療法論	老年期障害の概念や老年期をとりまく社会資源などの基礎知識や基礎技法、及び老年期障害に対する作業療法の実践について学ぶ。	2後	30	2	○		○		○			
○		老年期障害作業療法治療学演習	老年期障害領域における各障害に対する作業療法の実践を習得する。	3前	30	2		○	○		○			
○		発達障害作業療法論	発達障害領域における各障害に対する作業療法の実践を習得する。	2後	30	2	○		○				○	
○		地域作業療法学実習	施設利用者の生活及び障害の実態を体験し把握する。	1後	90	2			○		○	○		○
○		地域作業療法学	地域における作業療法をとりまく医療・福祉の理念、サービス体系、推進方法などを学び実態を把握する。また、就労支援についての基本制度並びに職	1前	30	2	○		○		○			
○		臨床実習Ⅰ	臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを	2後	225	5			○		○	○	○	○
○		臨床実習Ⅱ	臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを	3前	270	6			○		○	○	○	○
○		臨床実習Ⅲ	臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを	3後	315	7			○		○	○	○	○

○		作業療法総合学 習	これまでの総復習を行うとともに、出題の傾向と対策を分析し国家試験合格に向けての実力の向上を図る。	3 後	60	4	○		○	○		
○		実習前後教育Ⅰ	臨床(評価)実習を迎える前にスムーズに実習へ導入できる様に基礎を学ぶ。また、臨床(評価)実習後に実習体験の整理、検討を通して職業人とし	2 後	90	6		○	○	○		
○		実習前後教育Ⅱ	臨床(評価)実習を迎える前にスムーズに実習へ導入できる様に基礎を学ぶ。また、臨床(評価)実習後に実習体験の整理、検討を通して職業人とし	3 前	60	4		○	○	○		
○		実習前後教育Ⅲ	臨床(評価)実習を迎える前にスムーズに実習へ導入できる様に基礎を学ぶ。また、臨床(評価)実習後に実習体験の整理、検討を通して職業人とし	3 後	60	4		○	○	○		
○		導入教育	将来対人援助職として働く為に必要な人間性を養い、専門職につく為の学習に対する自己生活管理能力を身につける。	1 前	15	1		○	○	○		
○		国際教育	諸外国の福祉、医療の異文化理解を深め視野を広げる。	1 後	30	2		○		○	○	
合計				46科目		2505時間(127単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必須科目をすべて履修し、各科目においてC評価(60点以上)かつ授業時間数の10分の7以上の出席を要する(実習科目の出席時間数は5分の4とする)。実習以外の科目については前期、後期において各2回評価をおこなう。(必修科目46科目、2505時間、127単位)	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。